

平成 29 年度学校評価結果報告書（中間評価）

広島県立安古市高等学校

目次

様式3	平成29年度自己評価シート（中間評価）	1
様式4	平成29年度自己評価シート（中間評価まとめ）	5
様式7	平成29年度学校関係者評価シート（中間評価）	7

平成 29 年度自己評価シート(中間評価)

校番	51	学校名	広島県立安古市高等学校	校長氏名	船津 久美	全・定・通	本・分
----	----	-----	-------------	------	-------	-------	-----

学校経営目標							
達成目標		本年度行動計画		評価	理由	担当部等	
1 高い志を掲げ、生涯にわたり学び続ける意欲を持った生徒を育てる。							
3年間の系統的・組織的な進路指導計画に従い、生徒自身に明確なキャリアプランを描かせ、意欲的にその実現に向かわせる。		系統的・組織的な進路指導計画を作成し、各生徒の目標や希望に応じた進路実現を図る。 ア 学力層・進路希望に応じた補習の計画的実施 イ 生徒の学力や進路希望に応じた大学受験方法の指導 ウ AO・推薦・全入試対策個別指導の充実 a 入試問題の分析・研究 b 小論文・面接・実技対策指導の充実 c 第一学年からの表現指導(仰高ゼミ) エ 進路希望・学習実態調査の実施 オ 進路判定に関する基準の構築と共有化 a 進路検討会議(3年 3回) (2年 2回, 1年 1回) b 進路研修会(外部講師を招いての研修・各種模試結果・各学年進路検討会議報告等)		A	○3学年で習熟度や進路志望に応じた補習, 1・2学年でハイレベル補習を実施している。 ○学年会において, 進路LHRや学年集会の計画を立案, 進路指導部で確認, 実施後に報告を行っている。 ○難関大学を中心とした入試問題研究に加え, 模擬試験の分析を, 昨年度より精選し取り組んでいる。2学期より, 難関個別指導を実施している。 ○2カ月に1度の割合で, 1, 2年生で生活学習記録をとり, 分析している。また, 担任を中心とした個人面接を行い, 進路希望の把握とアドバイスに努めている。 ○進路年間指導計画に基づいて, 2年で1回, 3年で1回の進路検討会議を実施した。	進路指導 企画研修 各学年 各教科	
授業に積極的に取り組み, 学び続ける意欲を持った生徒を育てる。		ア 各教科において生徒に身に付けさせたい資質・能力を育むための「主体的な学び」を促す授業作りを推進する。授業改善アンケート(年間2回)を実施し, 個人・教科・全体で中間評価・年度末評価に対する分析を行う。中間段階では教員間の公開研究授業, 互見授業を通じて分析の成果を発表する。定期考査にExtensions問題を組み込む。		A	○授業改善アンケート(第1回7月)実施後, 各教科にて実践内容を検討・検証した。 ○「主体的な学びを促す授業づくり」を柱に公開研究授業を実施予定である。 ○定期考査で Extensions 問題の出題も多数見られる。	教務 各教科	

【評価結果の分析】

1・2学年では、基礎力の充実を図るために、補充を実施している。土曜補習については、授業では物足りない、さらに発展的な内容を学びたい生徒を対象にハイレベル補習を実施している。3学年は、進路志望に応じた補習、夏期補習を計画・実施し、多くの生徒が受講している。

各学年の進路指導については、サクセスストーリーや難関トータルプランに基づきながら、学年会を中心に計画、実施しているが、模擬試験の分析を行うことや、生活学習記録調査の結果等を参考にして、生徒の状況を把握することで柔軟に対応して修正を図っている。

今年度、初めて『合格体験記』を発行することができた。身近な先輩の生の声に触れることで、生徒の更なる学習意欲を引き出せるものと考えている。

2学年の大学オープンキャンパスの参加について、これまでは広島大学に全員参加していたものを、昨年度から生徒が志望する大学を選択して参加する形態に変えた。今年度は実に82名の生徒が他県の難関大学に申し込むなど、高い志を持ち、主体的に行動する生徒が育ってきている。

授業づくりの方策として、学校共通テーマを「生徒の主体的な学びを促す授業を目指し、「他者と協働する力」「知識・技能を活用する力」を育成する授業づくり」とし、「授業改善アンケートによる検証」を行い、指導力の向上に努めた。また各教科での実践の共有化、更なる指導力の向上を目指して、11月に公開研究授業や互見授業を実施する。

【今後の改善方策】

難関大学に対する指導方法の共有化と継承を図るために、今年度も昨年に引き続き難関指導研修を職員全体で行うことを予定している。

広島県が推進する「学びの変革」アクションプランへの取組や新しい入試制度への対応のために、新しい授業のあり方や入試関連の情報を積極的に入手し、取り組みを改善していく必要がある。

本校に入学してくる生徒の変化について年度初めに分析を行ったが、今後も引き続き変化を検証し、対応していく必要があると考える。

公開研究授業や互見授業等を通して、教員側の課題及び生徒側の課題を明らかにし、その課題克服に向けて取り組む。

家庭学習については学年＋2時間の指導は学校全体で浸透してきているが、課題の量については過度にならないように学年会を中心に調整を行うなどして、自主課題に取り組むことができるように時間的・精神的余裕を生徒に与えることも求められる。

2 安古市高校の一員としての自覚と誇りを持って、自分で考え行動できる生徒を育てる。

自律的な生活習慣を確立し、自己統制力の働く社会性を備えた生徒を育てる。	ア 安全・安心を意識して、気づく、考える、動く。 登下校の安全、心身の健康を保つことに関して、どうした方が良いか、どうしない方が良いかを、自ら気づき、考え、行動できる力を身に付けさせる。 ・交通安全指導 ・情報モラル指導 ・薬物防止指導 ・防犯に関する指導	A	○1学年に情報モラル教育を、2学年に薬物濫用防止教育を、3学年に消費者教育を行った。 ○早期に全校生徒に交通安全教育を行い、自転車点検を該当者に行った。	生徒指導 特別活動 推進 各学年
	ア ルールを意識して、気づく、考える、動く。 法令・法規・校則の意図を理解し、それを自主的に守る姿勢を養い、卒業後の社会に適応し、良いモデルとなる人材を育成する。 ・頭髪服装指導 ・遅刻指導 ・携帯スマホ指導 ・ルール指導	B	○折に触れ、クラスでも呼びかけ、個別に違反者の指導を行っている。	
	ア マナーを意識して、気づく、考える、動く。 心を込めた挨拶ができる、時間を守る、物を大切に管理するなど、自分のことだけではなく、相手の立場に立った行動ができていないかを、振り返り、常に改善していこうとする力を身に付けさせる。 ・挨拶指導 ・生徒会との連携 ・マナー指導	B	○生徒会との連携でクラス目標・スローガンをたてた。 ○今後も自覚を促し、自発的にマナーを守る生徒を増やす取り組みを行う。	
生徒の自主的な活動を活性化し、自身や他に誇れる成果の実現を目指す。	ア 執行部活動を通して生徒会執行部生徒のリーダーシップを養う。 イ 各種委員会の活性化を図ると共に、生徒会行事や生徒会活動への生徒一人ひとりの意識を高め、自主的・積極的な参加を促す。	B	○行事や委員会の運営では、執行部内で自ら考えて役割分担を行い、主体的に活動している。 ○各委員会は、各クラスの委員がクラスをまとめて行事などに積極的に参加している。しかし、委員がクラス全体に指示を徹底できない場面が見られた。	特別活動 推進 各クラブ

【評価結果の分析】

交通安全指導に関して、最も多く時間や取組回数を工夫して行っているが、事故・事故の対処・違反が十数件ある。自己統制力のあるレベルにまでは十分に達してはいない。携帯スマホについては、校内・校外を問わず使用する生徒がゼロではないが、その都度指導を加え、これに関して、他者に対する迷惑やルールを破ったことに対する反省も十分で、保護者の協力も得られている。遅刻数は減少傾向にあり、学校の指導方針（皆勤賞の設定と指導回数の明示）を明確にしてスタートしたことが一助となっている。

生徒会執行部の活動については、今年度は例年より行事などの準備が遅れることがあった。文化祭、クラスマッチ、体育祭等において準備から運営、後片付けまで主体的に活動している。各種委員会では、委員長から各クラス委員への指示や伝達が行われ、各クラスの委員はクラス全体に周知して積極的に行事や美化活動などに取り組んだ。しかし、今年度は生徒会執行部から各委員への指示や、各委員からクラス全体への周知が不十分なことがあった。

本年度の中間評価生徒アンケートにおいて学校行事の満足度は3.6ポイント(昨年と同じ)であった。部活動については、中間評価生徒アンケートで充実度は3.5ポイント(昨年と同じ)、加入率は93.8%(昨年+0.2)、中国大会以上出場クラブ数(延べ数、9月末までの出場決定数、昨年は11)は6である。

【今後の改善方策】

交通ルール・マナーの遵守に関しては、生徒が主体的に決めたクラス目標を活かしつつ、現行の校外指導を継続して、自覚が十分でない生徒に対する個別指導を地道に浸透させていく必要がある。また、他校の実践も参考にしつつ、ルールや安全に対して自ら周囲に配慮できる生徒の育成を心掛けていく。

今後、執行部内の各責任者・各委員長への、より細かな声かけを行っていききたい。その際、準備や活動の進捗状況や課題を確認することを重点的に行い、執行部生徒が運営や課題解決について自ら考える主体的な活動を促したい。

委員会活動では、次年度に向けて、執行部から各クラス委員への指示のあり方(指示の方法、指示内容の精選)、クラス内での周知の方法などの見直しを行っていく。

3 異なる価値観を持った人と協働して、持続可能な社会の担い手となる生徒を育てる。				
<p>探究コアスクールとして、総合的な学習の時間「仰高ゼミ」を核にして、生徒の現代社会の課題への意識を喚起する。</p>	<p>ア 3年間を見通したカリキュラムを作成し、単元ごとにパフォーマンス課題を設定する。 イ 担当部署・学年会での内容の協議・共有・改善にかかるPDCAサイクルを構築する。 ウ 生徒主体の授業展開とするため、担当教員はファシリテーターとしての役割を重視する。 エ 教科活動・特別活動と連携し、探究活動の深化を図る。 オ 生徒・教職員がESDの観点で共有して総合学習を進める。</p>	A	<p>○単元計画の見直しをすすめ、新たな単元構成とした。 ○各学年会、担当者会において単元計画の共有・改善を行った。 ○生徒主体で教科横断的な課題探究を実施した。 ○持続可能な社会の実現をめざした単元内容で総合学習を進めた。</p>	企画研修 教務 各教科
<p>中学校との連携を深めるとともに、時宜を得た広報活動によって安古市高校の魅力をアピールする。</p>	<p>ア 定期的な中学校訪問を実施し、各中学校との連携を深める。(5月, 3月, 適宜) イ 中学校での出前授業等を通じて、本校への理解を深める。(6月) ウ 中学3年生を対象とした学校説明会を実施する。(7月) エ 中学2年生を対象とした学校説明会を実施する。(12月) オ Web ページを一層充実させ、本校の魅力の発信を図る。 カ 地域の方々に日常的な教育活動を見てもらう機会を提供する。 キ 小学校及び中学校を含む他校に本校の教育活動をアピールする。</p>	A	<p>○中学3年生対象学校説明会の目標78%に対して、77%であった。 ○他の中学校との連携の取り組みの実施状況を加味して判断した。 ○ホームページに、行事ごとの様子を掲載するようにした。 ○3年生のパネルディスカッションには、保護者、教育センターの講座受講者、中学校の教員、そして視察のため県外から来校された教員等に見ていただいた。</p>	総務 特別活動 推進

【評価結果の分析】

今年度は仰高ゼミ及び各教科の学校共通テーマを「生徒の主体的な学びを促す授業を目指し、『他者と協働する力』『知識・技能を活用する力』を育成する授業づくり」とし、各学年の仰高ゼミの見直しを行った。特に2学年に個人による課題設定・探究型のプログラムによる「知の冒険」という単元を配し、そのカリキュラム開発に取り組んでいる。各学年ともに生徒主体の探究活動とその発表の場を設定している。

5月の中学校訪問を管理職中心で実施した。中学校2校での出前授業を実施し、連携を深めている。

7月に中学3年生対象学校説明会を実施し、アンケート結果で「全体の印象で大変良く理解できた」と答えた生徒85.0%、保護者68.9%であった。雨が降り部活動見学などが十分にできなかったことを考えると、良い結果だと考える。生徒会、放送部、吹奏楽部、1年生ボランティア生徒など、生徒が主体的に関わり、生徒自身も成長する企画となった。

【今後の改善方策】

年度末に向けて2学年「知の冒険」のカリキュラムを完成させる。新たに導入した2学年のカリキュラムと1学年・3学年のカリキュラムが呼応して「他者と協働する力」「知識・技能を活用する力」をさらに伸ばすことができるように、全体のカリキュラム改善に継続して取り組む。

計画中の中学2年生対象学校説明会で授業参観を実施し、本校の授業の質の高さをアピールする。

Web ページについても、校内の発信体制を整え従来より頻繁に更新できている。生徒の生き生きとした取組を、より積極的に発信していきたい。

平成 29 年度自己評価シート(中間評価まとめ)

校番	51	学校名	広島県立安古市高等学校	校長氏名	船津 久美	全・定・通	本・分
----	----	-----	-------------	------	-------	-------	-----

1 評価結果の分析

生徒、保護者、教員のアンケートの結果等に基づき、自己評価（中間評価）を実施し、今年度の学校経営目標（3点）に係る8評価項目について5項目をA、3項目をBと評価した。この評価結果を次のように分析する。

(1) 高い志を掲げ、生涯にわたり学び続ける意欲を持った生徒を育てる。 2項目 A

1・2学年では、基礎力の充実を図るために、補充を実施している。土曜補習については、授業では物足りない、さらに発展的な内容を学びたい生徒を対象にハイレベル補習を実施している。3学年は、進路志望に応じた補習、夏期補習を計画・実施し、多くの生徒が受講している。

各学年の進路指導については、サクセスストーリーや難関トータルプランに基づきながら、学年会を中心に計画、実施しているが、模擬試験の分析を行うことや、生活学習記録調査の結果等を参考にして、生徒の状況を把握することで柔軟に対応して修正を図っている。

今年度、初めて『合格体験記』を発行することができた。身近な先輩の生の声に触れることで、生徒の更なる学習意欲を引き出せるものと考えている。

2学年の大学オープンキャンパスの参加について、これまでは広島大学に全員参加していたものを、昨年度から生徒が志望する大学を選択して参加する形態に変えた。今年度は実に82名の生徒が他県の難関大学に申し込むなど、高い志を持ち、主体的に行動する生徒が育ってきている。

授業づくりの方策として、学校共通テーマを「生徒の主体的な学びを促す授業を目指し、「他者と協働する力」「知識・技能を活用する力」を育成する授業づくり」とし、「授業改善アンケートによる検証」を行い、指導力の向上に努めた。また各教科での実践の共有化、更なる指導力の向上を目指して、11月に公開研究授業や互見授業を実施する。

(2) 安古市高校の一員としての自覚と誇りを持って、自分で考え行動できる生徒を育てる。 1項目 A, 3項目 B

交通安全指導に関して、最も多く時間や取組回数を工夫して行っているが、事故・事故の対処・違反が十数件ある。自己統制力のあるレベルにまでは十分に達してはいない。携帯スマホについては、校内・校外を問わず使用する生徒がゼロではないが、その都度指導を加え、これに関して、他者に対する迷惑やルールを破ったことに対する反省も十分で、保護者の協力も得られている。遅刻数は減少傾向にあり、学校の指導方針（皆勤賞の設定と指導回数の明示）を明確にしてスタートしたことが一助となっている。

生徒会執行部の活動については、今年度は例年より行事などの準備が遅れることがあった。文化祭、クラスマッチ、体育祭等において準備から運営、後片付けまで主体的に活動している。各種委員会では、委員長から各クラス委員への指示や伝達が行われ、各クラスの委員はクラス全体に周知して積極的に行事や美化活動などに取り組んだ。しかし、今年度は生徒会執行部から各委員への指示や、各委員からクラス全体への周知が不十分なことがあった。

本年度の中間評価生徒アンケートにおいて学校行事の満足度は3.6ポイント(昨年と同じ)であった。部活動については、中間評価生徒アンケートで充実度は3.5ポイント(昨年と同じ)、加入率は93.8%(昨年+0.2)、中国大会以上出場クラブ数(延べ数、9月末までの出場決定数、昨年は11)は6である。

(3) 異なる価値観を持った人と協働して、持続可能な社会の担い手となる生徒を育てる。 2項目 A

今年度は仰高ゼミ及び各教科の学校共通テーマを「生徒の主体的な学びを促す授業を目指し、『他者と協働する力』『知識・技能を活用する力』を育成する授業づくり」とし、各学年の仰高ゼミの見直しを行った。特に2学年に個人による課題設定・探究型のプログラムによる「知の冒険」という単元を配し、そのカリキュラム開発に取り組んでいる。各学年ともに生徒主体の探究活動とその発表の場を設定している。

5月の中学校訪問を管理職中心で実施した。中学校2校での出前授業を実施し、連携を深めている。

7月に中学3年生対象学校説明会を実施し、アンケート結果で「全体の印象で大変良く理解できた」と答えた生徒85.0%、保護者68.9%であった。雨が降り部活動見学などが十分にできなかったことを考えると、良い結果だと考える。生徒会、放送部、吹奏楽部、1年生ボランティア生徒など、生徒が主体的に関わり、生徒自身も成長する企画となった。

2 今後の改善方策

(1) 高い志を掲げ、生涯にわたり学び続ける意欲を持った生徒を育てる。

難関大学に対する指導方法の共有化と継承を図るために、今年度も昨年に引き続き難関指導研修を職員全体で行うことを予定している。広島県が推進する「学びの変革」アクションプランへの取組や新しい入試制度への対応のために、新しい授業のあり方や入試関連の情報を積極的に入手し、取り組みを改善していく必要がある。

本校に入学してくる生徒の変化について年度初めに分析を行ったが、今後も引き続き変化を検証し、対応していく必要があると考える。

公開研究授業や互見授業等を通して、教員側の課題及び生徒側の課題を明らかにし、その課題克服に向けて取り組む。

家庭学習については学年+2時間の指導は学校全体で浸透してきているが、課題の量については過度にならないように学年会を中心に調整を行うなどして、自主課題に取り組むことができるように時間的・精神的余裕を生徒に与えることも求められる。

(2) 安古市高校の一員としての自覚と誇りを持って、自分で考え行動できる生徒を育てる。

交通ルール・マナーの遵守に関しては、生徒が主体的に決めたクラス目標を活かしつつ、現行の校外指導を継続して、自覚が十分でない生徒に対する個別指導を地道に浸透させていく必要がある。また、他校の実践も参考にしつつ、ルールや安全に対して自ら周囲に配慮できる生徒の育成を心掛けていく。

今後、執行部内の各責任者・各委員長への、より細かな声かけを行っていききたい。その際、準備や活動の進捗状況や課題を確認することを重点的に行い、執行部生徒が運営や課題解決について自ら考える主体的な活動を促したい。

委員会活動では、次年度に向けて、執行部から各クラス委員への指示のあり方(指示の方法、指示内容の精選)、クラス内での周知の方法などの見直しを行っていく。

(3) 異なる価値観を持った人と協働して、持続可能な社会の担い手となる生徒を育てる。

年度末に向けて2学年「知の冒険」のカリキュラムを完成させる。新たに導入した2学年のカリキュラムと1学年・3学年のカリキュラムが呼応して「他者と協働する力」「知識・技能を活用する力」をさらに伸ばすことができるように、全体のカリキュラム改善に継続して取り組む。

計画中の中学2年生対象学校説明会で授業参観を実施し、本校の授業の質の高さをアピールする。

Webページについても、校内の発信体制を整え従来より頻繁に更新できている。生徒の生き生きとした取組を、より積極的に発信していきたい。

3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策(学校関係者評価実施後に記入する。)

改善方策をととても適当と判断していただいたので、今後も予定通り進めていく。今一度、校訓「仰高」の精神のもと、目指す生徒像を教職員全員で再確認し、協働して学校づくりにあたっていききたい。

平成29年度学校関係者評価シート(中間評価)

平成29年10月31日

校番	51	学校名	広島県立安古市高等学校	校長氏名	船津 久美	全・定・通	本分
----	----	-----	-------------	------	-------	-------	----

評価項目	評価	理由・意見
目標、指標、計画等の設定の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・安古市高校の目指す方向としっかりマッチしたものにしていってください。 ・進学校として、適切な目標設定をされ、計画を立てておられます。 ・目標、指標、計画等の設定は、適切と思います。目標3の「学校説明会アンケート」等の目標数値については、平成28年度の実績が目標を上回っており、実績以上の数値にできると思います。 ・目標、指標、計画等の設定は適切と思います。
計画の進捗状況の評価の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・PDCAに+Pで有効に改善を進めてください。 ・指標に基づいて、適切に自己評価をされていると思います。 ・適切な評価と思います。 ・計画の進捗状況の評価は適切と思います。
目標達成に向けた取組の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の生徒ならここまで出来るであろうというハードルは高く設定して欲しい。できない理由を今の生徒はということにはしてほしくありません。若手の先生方は生徒とあまり年齢は変わらないので自分たちのこととして生徒を見て欲しい。 ・行動計画として、具体的に幅広い取組を実施されていると思います。 ・適切だと思います。教職員の負担減をせざるを得ない状況の中、ハイレベル補習への改善については、大いに評価できる。 ・目標達成に向けた取組は適切と思います。将来、自分で考え正しい行動が取れるようにするためには、社会の様々な規律を意識した社会の基本を反復・継続学ぶことが重要と思います。
評価結果の分析の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・丁寧に分析されています。 ・具体的に分析をされて、適切に判断されていると思います。 ・適切だと思います。 ・評価結果の分析は適切と思います。生徒が何を望み現状をどのように評価しているかを、常に把握していることは重要と思います。
今後の改善方策の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・常に適切な負荷をかける指導であって欲しい。 ・発達障害をもつ生徒(保護者)の対応が大切になります。 ・安古市高校スタイルを作っても良いのではないのでしょうか。 ・生徒の指導など、時間がかかることについては、Bという評価でありながら、今後に向けて、具体的な改善策を考えておられます。 ・目標達成が期待できると思います。 ・交通ルール・マナーの遵守については、自転車通学が多い安古市高校においては、なかなか厳しい目標ではないかと思いますが、頑張ってもらいたい。 ・今後の改善方策は適切と思います。目標達成には組織的な対応で効率性も求められると思います。
総合評価	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営計画はとても順調に進んでいるように思う。特に、高校教育の総和としての生徒一人ひとりの進路実現の達成に向けて、一層の尽力を期待している。 ・毎回書かせていただいておりますが、地域からのニーズ(安古市高校へのあこがれ)は強いものがあります。現在は近隣私立大学ならある程度は入学出来ると思います。そこがゴールにならないで欲しい。 ・入学生との学力差が大きく指導も一律にはいなくなることを先生方にもしっかり認識して指導にあたってください。教師が今までの自分のやり方を工夫改善していかないと難しいと思います。 ・素晴らしい取組をされており、学校運営として学ばせていただいております。 ・安古市高校らしい素晴らしい計画だと思います。そして目標に向けて努力されています。引き続き、目標達成のため頑張りを期待しています。 ・学習指導・生活指導・人間育成を目標に細部にわたり行動計画が作成され適切に実行されていると思います。 ・地域との交流を通じた活動が、他者と協働して行動することの重要性が幅広く体験できる機会になると思います。